

Shinto News



内科診療部長 / 血液内科部長
下村 泰三

最近のトピックス TOPICS

多発性骨髄腫の治療の進歩

多発性骨髄腫：

多発性骨髄腫は骨髄中の形質細胞が腫瘍化する予後不良の血液がんの一つです。

高齢者に多く、その発症頻度は10万人あたり約5人と血液がんの中では悪性リンパ腫、白血病について3番目に多いとされています。貧血や高カルシウム血症、腎機能障害、高タンパク血症などで発症しますが、とくに骨病変による病的骨折で発症する場合、日常生活に大きく影響を及ぼします。2000年以前は多発性骨髄腫の平均生存期間は約3年でしたが、2000年代に入り、この疾患に対するサリドマイドの効果が示されて以降、新規薬剤が次々と登場して予後は飛躍的に向上しています。

治療について：

多発性骨髄腫に対する治療の現状について説明します。新規薬剤が治療の主体になってきたとはいえ、従来の化学療法の効果認められないわけではありません。実際、抗がん剤の一つであるメルファラン大量療法は生存期間を延長させることが報告されています。ただしその場合、大量化学療法により骨髄が破壊されますので、支持療法として前もって自己末梢血幹細胞を採取し抗がん剤投与後に移植する、すなわち自己末梢血幹細胞移植を併用することが必要になります。この治療法は高い奏効が期待できますので、選択可能な患者さんは最初に試みられる治療法です。しかし非常に負荷のかかる治療でもありますので、この治療法が可能となるのは概ね60代までの患者さんに限られます。自己末梢血幹細胞移植併用大量化学療法ができない高齢者や合併症のある患者さんは、新規治療薬を1剤あるいは2剤とステロイドを組み合わせた治療法を繰り返し継続していくことになります。

新規薬剤について：

新規薬剤には免疫調整薬、プロテアソーム阻害剤、抗体製剤、HDAC阻害剤があり、内服、点滴、皮下注など投与方法や副作用の出現も異なりますので、治療効果と合併症や本人、家族の意向などを考慮しながら治療レジメンを選択しています。

このような新規薬剤を中心とした治療により、生存期間が以前は平均約3年でしたが、現在の5年生存率は50%を越え、発症から10年経過した患者さんも珍しくありません。特に以前と異なることは、骨病変による多発骨折のため寝たきりになる患者さんが殆どみられなくなったことです。

さらに今後、この疾患に対しキメラ抗原受容体T細胞(CAR-T)療法や二重特異性T細胞誘導抗体(BiTE抗体)療法などの免疫を介した治療法が臨床応用されようとしています。

前者は骨髄腫細胞上に発現しているBCMA抗原を認識するキメラ抗原受容体を自己のT細胞に遺伝子導入したCAR-T細胞を体外で増幅させ戻すことにより強制的に骨髄腫細胞に対し免疫反応を起こし排除する治療法です。後者は骨髄腫細胞表面上のBCMA抗原と自己のT細胞を橋渡しする人工的な抗体(BiTE抗体)を投与して自己のT細胞が骨髄腫を認識しやすく免疫反応を起こさせるものです。いずれも従来の新規薬剤が効きにくくなった再発難治の多発性骨髄腫に対しても高い奏効を示し、今後大いに期待される治療法ですが、強い免疫反応が出現することもあり慎重に適応を考えていく必要があります。

現在使用可能な新規薬剤にこのような新薬の導入が進めば、さらに多発性骨髄腫の予後の改善が期待されます。将来的には根治は望めなくても慢性疾患といわれるようになるかもしれません。先生方の患者さんで、多発性骨髄腫疑いの患者さんがおられましたらご紹介をお願いいたします。

理念

私たちくまもと森都総合病院は質の高い医療を通じて地域に愛され親しまれる病院を目指します。

基本方針

患者さんとの良好なパートナーシップを築き、満足度の高い、心かよう医療の提供に努めます。地域医療機関との連携を密にし、地域に根ざした医療サービスを推進します。優れた医療人を育成し、安全で質の高い医療を提供します。



KUMAMOTO
SHINTO
General Hospital

つながる医療。ひろがる未来。

医療法人 創起会

くまもと森都総合病院

〒862-8655 熊本市中央区大江 3-2-65

TEL 096-364-6000 (代表)

FAX 096-362-5204

<https://www.k-shinto.or.jp>



写真左から 山田祐莉子医師、山部聡一郎部長、有村仁志医長

診療科紹介 整形外科

骨折などの外傷、関節や脊椎の変性疾患といった一般整形外科の診療を中心に、救急対応を含めた診療を行っています。救急医療としては整形外科医師によるオンコール体制をとっており、急な外傷や各種疾患の急性期に対して専門的に対応しています。そのほか、変形性関節症や関節リウマチといった慢性関節疾患の患者さんが保存的な治療で改善が得られないような場合には、股関節および膝関節に対する人工関節置換術を行っています。また、整形外科疾患の保存療法を受けられている方や術後の患者さんに対しては、主に入院にて365日体制でリハビリテーションを施行しています。

大腿骨近位部骨折：

大腿骨頸部骨折／転子部骨折といった大腿骨近位部の骨折は主に高齢者に起こる骨折で、ADLならびにQOLを著しく低下させます。基本的には早期離床をめざして手術療法が選択されます。大腿骨頸部／転子部骨折診療ガイドラインでは、手術を早期に行うことによって入院期間の短縮、合併症発生率の低下、1年後の生存率向上などが見込めるとされています。高齢者は内科疾患の合併が多いため、手術に際しては他科との連携が不可欠です。

当院では、関連部門で協力して骨折受傷後48時間以内の早期手術を目標とし、治療を行っています。

変形性股関節症／膝関節症：

股関節／膝関節の変形性関節症は高齢者に多くみられる疾患です。鎮痛剤や関節腔内注射、筋力トレーニングなどのリハビリテーション、装具療法等で加療します。それに

もかかわらず疼痛が持続し歩行に支障をきたす場合には、人工股関節／膝関節置換などの手術療法も選択肢となります。人工関節置換術の安全性や術後の関節機能を高めるためには正確な手技が不可欠であるため、精度の高い関節置換を達成すべくナビゲーションシステムを利用して手術を行っています。

脊椎圧迫骨折：

脊椎圧迫骨折は高齢者の脆弱性骨折の中で最も頻度が高い骨折です。基本的にはコルセットによる外固定を行い、保存的に治療を行います。ただし、骨折が脊柱管に及ぶ脊椎破裂骨折や、受傷部位に不安定性が生じるような骨折の場合には手術が必要となることもあります。MRIやCTを用いて診断し、手術を要する場合には脊椎外科のある専門施設への依頼・調整を行います。保存療法が可能な場合には当院での入院リハビリテーションを行います。

(※2022年5月現在、当院地域包括ケア病棟を新型コロナウイルス感染症入院病棟へ一時転換しており、短期入院のみを受け入れております。)

以前より整形外科医師3名で診療を行っておりましたが、2022年度は2名が入れ替わりとなり、心機一転再スタートしております。患者さんが運動器の障害から回復し、苦痛なく過ごしていただけるように最善の治療を行うべく努力してまいります。お困りの患者さんがおられましたら是非ご紹介いただけますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(整形外科部長 山部 聡一郎)

『Shinto公開医学講座』のご案内

テーマ 隗より始めよ
子宮頸癌予防 HPV ワクチン

わかりやすく解説いたします。どうぞお気軽にご参加ください。

日時 2022年6月16日(木) 17:30～

開催方法 ハイブリッド開催 (Web参加も可能です)

場所 くまもと森都総合病院 5F 大会議室

参加方法 下記URLもしくはQRコードよりお申し込みください。
お申し込み確認後、招待メールをお送りさせていただきます。
(<https://forms.gle/7NG9M8LDc2FWiurE6>)

講師 特別顧問 片渕 秀隆 (産婦人科)





1

外来予約依頼書を当院へFAXをお願いします。

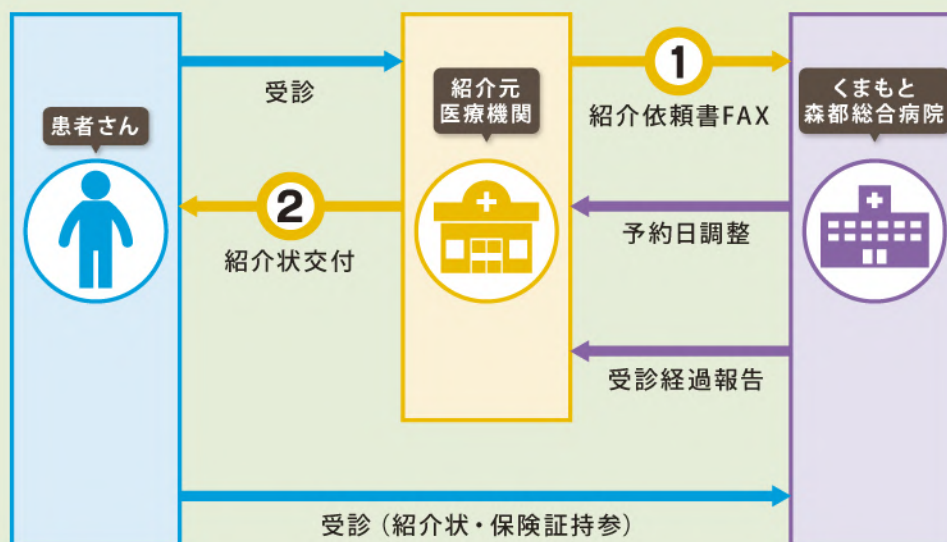
外来予約依頼書を当院地域医療連携室へFAX (096-364-8585) ください。所定書式を準備しております。当院ホームページからダウンロードも可能です。

<https://www.k-shinto.or.jp/> トップページ > 医療関係者の方へ > 患者紹介について

2

患者さんへ紹介状をお渡しいたしますようお願いいたします。

受診予定日が決まりましたら貴院へ予約票をFAXさせていただきます。
患者さんに紹介状(診療情報提供書)をお渡しいたし、受診当日にご持参いただけますようご案内をお願いいたします。



紹介予約 (FAX予約) 受付時間

平日9時00分から16時00分まで

FAX送付先 地域医療連携室

FAX 096-364-8585

※受付時間外にいただきましたFAX紹介につきましては、翌診療日に予約調整とさせていただきます。

電話紹介について

緊急性が高く、当日受診が必要な患者さんのご紹介はお電話にてお願いいたします。

ご不明な点につきましては下記までお電話くださいますようお願いいたします。

地域医療連携室 Tel.096-364-9790 Fax.096-364-8585

受付時間 午前 8:00 ~ 11:00 (再来機の受付は7:30より開始) ※急患はこの限りではございません

2022年6月1日現在

	午前 / 午後	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内科診療：午前〔初診及び再診〕・午後〔再診のみ〕						
総合診療科	午前	吉田 健	吉田 健	吉田 健 再診	吉田 健	
循環器内科	午前	中村 尚太		中村 尚太	中村 尚太	中村 尚太
	午後	中村 尚太		中村 尚太		
肝臓・消化器内科	午前	藤山 重俊	宮瀬 志保	藤山 重俊	宮瀬 志保	柚留木 秀人
		柚留木 秀人	三浦 浩美	束野 奈津己	束野 奈津己	三浦 浩美
血液内科	午前	藤原 志保	藤原 志保	下村 泰三	藤原 志保	下村 泰三
		花田 駿志	鈴島 仁	渡邊 祐子	渡邊 祐子	鈴島 仁
	午後	下村 泰三	宮川 寿一		宮川 寿一	
呼吸器内科	午前			今井 美友 (熊大) 再診		
腎臓内科	午前				水足 謙介	水足 謙介
	午後	水足 謙介				
リウマチ 膠原病内科	午前	高岡 宏和 初診	高岡 宏和 再診		高岡 宏和 再診	
	午後			高岡 宏和 再診		
代謝・内分泌内科	午後			黒岩 花織 (熊大) 再診		
乳腺センター (乳腺外科)	午前 8:30 ~ 12:00 午後 14:00 ~ 16:00 (完全予約制)	初診担当医 再診	手術	初診担当医 再診	手術	初診担当医 再診
		大佐古 智文	大佐古 智文	大佐古 智文	大佐古 智文	大佐古 智文
		奥村 恭博	奥村 恭博	奥村 恭博	奥村 恭博	奥村 恭博
		大塚 弘子	大塚 弘子	大塚 弘子	大塚 弘子	大塚 弘子
		中野 正啓	中野 正啓	中野 正啓	中野 正啓	中野 正啓
外科	午前	山中 剛	田嶋 ルミ子	田嶋 ルミ子	山中 剛	山中 剛
	午後	手術	手術	手術	手術	手術
整形外科	午前 初診 再診	有村 仁志	山部 聡一郎	有村 仁志	山部 聡一郎	山田 祐莉子
		山部 聡一郎	山田 祐莉子	山部 聡一郎	山田 祐莉子	有村 仁志
皮膚科 (完全予約制)	午前	宮下 加奈子	松尾 敦子	松尾 敦子	宮村 智裕	松尾 敦子
		城野 昌義 再診	宮村 智裕	宮下 加奈子	城野 昌義 再診	宮下 加奈子
	午後	予約注射のみ	手術		(回診) 予約注射のみ	手術
産婦人科	午前	永井 隆司	永井 隆司	永井 隆司	永井 隆司	永井 隆司
		岡島 翠	岡島 翠	岡島 翠	岡島 翠	岡島 翠
	午後	片淵 秀隆 (女性相談外来) 手術	片淵 秀隆 (女性相談外来) 手術	手術	片淵 秀隆 (女性相談外来) 手術	永井 隆司 初診予約 岡島 翠 (検診)
眼科	午前	松本 光希 8:30 診察開始	松本 光希 9:30 診察開始	松本 光希 8:30 診察開始	手術	松本 光希 8:30 診察開始
		草野 雄貴 8:30 診察開始	草野 雄貴 8:30 診察開始	草野 雄貴 9:30 診察開始		草野 雄貴 9:30 診察開始
		西澤 麻保 9:30 診察開始	西澤 麻保 8:30 診察開始	西澤 麻保 8:30 診察開始		西澤 麻保 8:30 診察開始
	午後	手術	特殊外来	手術	手術	手術
放射線科 (幸秀明・西東葉子)	午前	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
	午後	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
麻酔科 ペインクリニック (完全予約制)	午前	洲崎 祥子		田口 裕之		
		田口 裕之 (術前診療)		洲崎 祥子 (術前診療)		
緩和ケア (面談)	午前	橋口 清明	橋口 清明	橋口 清明	橋口 清明	橋口 清明
腫瘍精神科	午前	木下 裕子	木下 裕子	木下 裕子	木下 裕子	